

## ■産学連携 IT 人材育成のための汎用的教育コンテンツの概要

## (1) プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ

対象	高等教育機関の IT 系学部・学科の学生
学習目標	具体的な課題事例を基に、チームによるシステム開発演習を通して、要件定義～システム設計～実装・テスト・評価までの一連の開発工程を経験するとともに、コミュニケーション、チームワーク等のスキルの必要性を理解する。
前提知識	アルゴリズムとデータ構造、C 言語プログラミングの基礎
実施形態	1 講座当たりの総授業時間数 90 分×15 コマ 全体を、「要件定義」「システム設計」「実装・テスト・評価」のそれぞれ 5 コマの 3 フェーズに大別し、各フェーズで、課題事例 (DVD レンタル業務) に対応したプロジェクト型チーム開発演習を実施する。各フェーズは単独でも利用可能。
提供教材	シラバス、講師用コンテンツ、学生用コンテンツ、演習課題と各種設計書、テスト問題と解答例、受講レポート用課題、講師用ティーチングガイド

## (2) パーソナルスキル (ロジカルシンキング) 養成教育コンテンツ

対象	高等教育機関の IT 系学部・学科の学生
学習目標	具体的な課題事例を基に、個人演習、チーム演習を通じ、IT 技術者にとって必要な論理的思考力とそれに基づいたコミュニケーション力を各種支援ツールの使用方法とともに習得する。
前提知識	特定の知識を必要としない。
実施形態	1 講座当たりの総授業時間数 90 分×15 コマ 演習課題は、学生に身近でわかり易い事例を選定し、講義と個人演習、チーム演習を組み合わせ実施する。 各コマは単独でも利用可能で、教育内容に応じ部分的に選択して利用も可能。
提供教材	シラバス、講師用コンテンツ教材、学生用コンテンツ、演習課題、テスト問題と解答例、受講レポート課題、講師用ティーチングガイド

## (3) ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ

対象	高等教育機関の IT 系学部・学科の学生
学習目標	具体的な課題事例 (書籍、文具などの受注・出荷業務) を基にした実践演習を通じ、「構造化技法」「オブジェクト指向技法」の各技法でのソフトウェア設計の良い設計例/悪い設計例のポイントを理解する。
前提知識	オブジェクト指向技法の基礎知識、構造化技法の基礎知識
実施形態	1 講座当たりの総授業時間数 90 分×9 コマ 「構造化技法」「オブジェクト指向技法」の 2 コースに大別し、それぞれ講義、演習を含め全体で 9 コマとする。 2 コースを連続して実施することで、技法を深く理解させることが目的だが、単独でも利用可能。
提供教材	シラバス、講師用コンテンツ教材、学生用コンテンツ、演習課題と各種設計書、テスト問題と解答例、受講レポート用課題、講師用ティーチングガイド